

2020 年度

事業報告書

自 令和 2 年 1 月 1 日

至 令和 2 年 12 月 31 日



一般社団法人 Omusubi

2020 年度事業報告書および附属明細書

(2020 年 1 月 1 日~2020 年 12 月 31 日)

1. 事業運営の総括

本年度は、気仙沼市より地域おこし協力隊活用プロジェクトに選出されることをはじめとして私たちの活動が社会に理解していただけることを感じた 1 年だった。一方、新型コロナウイルスの感染拡大により、全ての活動に多大なる影響が出た。

このような状況の中、大きな問題がなく、年度末を迎えることができたことは、日頃よりご支援いただいている皆様に感謝したい。各取り組みの概要は以下の通りである。

2. 2020 年度事業報告

項目	内容
実施した事業内容	1. 多世代シェア ○シェアメイトと子育てママの交流食事会・ケーキ会 シェアメイト(学生 3 名、新卒社会人 1 名、地域おこし協力隊 1 名)が定期的に子どもやママと触れ合う機会を作った。子育ての大変さや楽しさを共有した。 第一回(5/24) シェアメイト 4 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名 第二回(6/21) シェアメイト 5 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名 第三回(9/28) シェアメイト 5 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名 第四回(10/15) シェアメイト 5 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名 第五回(11/12) シェアメイト 5 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名 第六回(12/10) シェアメイト 5 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名 第七回(3/5) シェアメイト 5 名、子育てママ 1 名、子ども 1 名  ○シェアメイトの託児体験 実際の託児にサポートスタッフとして入り、保育士と一緒に託児に預けられる子どもたちの保育を行った。 9/13、10/17、11/29、2/22、2/23 それぞれシェアメイト 1 名ずつ



○地域の若者向け子育て交流会

・子育てママ生活の疑似体験(7/14)

若い子どものいない男女11名、0歳～小学生の子ども9名、子育てパパ・ママ 7名
ママ・パパは別室でモニタリングしている中で、子どもと未婚の大人がペアになって料理を行なった。おむつ交換、抱っこ紐を使った抱っこ等を経験してもらい、終了後はみんなでごはんを食べ、意見交換を行なった。



・omusubi リノベーション

omusubi のリノベーション作業を通して、乳幼児、小学生、ママ、移住者等多世代が交流する機会を作った。

第一回(9/4) 子どものいない男女3名、0歳～小学生の子ども3名、パパ・ママ 2名

第二回(9/5) 子どものいない男女3名、0歳～小学生の子ども6名、パパ・ママ 2名

第三回(9/12) 子どものいない男女8名、0歳～小学生の子ども6名、パパ・ママ 4名



・マイプロとの連携(1/24)

気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード2020で「幼児の防災意識を高めるには」について発表した気仙沼高校2年生の中野さんが、5組の親子(子ども0～6歳)に対して、防災につながるゲームや手作り紙芝居を行った。

1/24 大人5名、子ども9名



・その他の関わり

地域の中で活動する中で、omusubiを様々な方々が訪れてくるようになった。その中で地域の人と子どもたちの関わりが偶然生まれることが多々あった。



2. ママシェア

○シェアメンバー向けのマニュアル作成

保健所、市役所とママシェアの制度について確認。シェアメンバーさん向けのマニュアルを保育士で話し合って作成した。



○シェアメンバー確保

支援員研修でのチラシ配りや広報活動を行い、18名のシェアメンバーを確保した。作成したマニュアルを元に研修を行い、ママたちにシェアの輪が広がっている。

3. 行政・企業シェア

○子育てラボ開催

市内で子育て支援を行う 6 団体が、市役所及び企業に向けて自分たちの取り組み発表を行う「子育てラボ」を開催。子ども家庭課、合同会社 colere と共に企画・運営・開催を行った。



○けせんぬまコソダテノミカタ基金

気仙沼市内の子育て支援団体が協力して寄付集めを行う基金を立ち上げた。

1. 寄付集め

事務局として子育て支援団体とともに市内 12 社の企業訪問を行う。計 336,000 円の寄付を集めた。

寄付のお願いをすると同時に、企業の子育てにおける課題の共有や情報交換を行なった。

2. 各団体の企画作成、伴走

子育て支援団体が寄付を使って行う活動を一緒に考え、活動のサポートを行なった。



○フェイスブック「けせんぬまコソダテノミカタ」運用開始

市内の子育て支援団体の活動を広く発信する Facebook ページを作成。運用・管理を行う。



	○子育てタウンミーティング定例会議参加 月に一回、子育て支援団体が集まる定例会議に参加する。 また子ども家庭課との定例会議は1-2週間に1回継続し、方向性の確認や課題共有を行なった。 
成果及び 自己評価	昨年までは市内の各子育て支援団体がそれぞれ活動を行っていたが、今年度「子育てをシェア」することを目標に活動を行ったことで、子育て支援団体やママだけでなく、行政・企業・一般市民との連携を生むことができた。 10月にコソダテノミカタ基金を設立、市内子育て支援団体(6団体)とけせんぬまコレクティブインパクトプラットフォーム「コソダテノミカタ」を立ち上げることができた。 また子ども子育て支援交付金(一時預かり事業)の交付も決定し、来年度以降の安定した運営につながった。

4. 事業報告の附属明細書

2020年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。